平成20年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール大会

第61回全国高等学校バスケットボール選手権大会

彩夏到来 08 埼玉総体

平成20年7月30日(水)　　二回戦

Ⅰ コート　第4試合　　本庄総合公園体育館 (シルクドーム)

チームA			チームB
明星学園 東 京	70	19 － 15 16 － 16 10 － 17 25 － 10 －	58	千葉国際 千 葉

明星学園

番号	氏名	出場	得点	3P 成功	3P 試行	2P 成功	2P 試行	FT 成功	FT 試行	反則	リバウンド OF	リバウンド DF	TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分
4	菅原 梨沙	X	10	1	7	2	9	3	6	1	1	2	4	2	3	0	40
5	関戸 恵	X	18	0	1	8	16	2	3	3	1	2	2	1	1	0	38
6	森 有加里	X	12	0	0	5	9	2	2	4	2	3	2	7	0	0	32
7	張 楠	X	18	0	0	8	18	2	6	5	7	7	4	0	1	1	33
8	内田 美緒	／	0	0	0	0	1	0	0	1	3	1	2	0	0	1	8
9	河村 安紀奈		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
10	地口 ひかる	X	6	2	6	0	2	0	0	3	1	8	1	2	0	0	40
11	星野 彩夏	／	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
12	百瀬 素直		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
13	大滝 知子		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
14	張 静	／	2	0	0	1	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	4
15	佐藤 茜	／	4	0	0	2	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
コーチ	椎名 真一									0	1	3					
			70	3	14	26	59	9	17	19	17	27	15	12	5	2	200
			確率	21.4%		44.1%		52.9%			計	44					

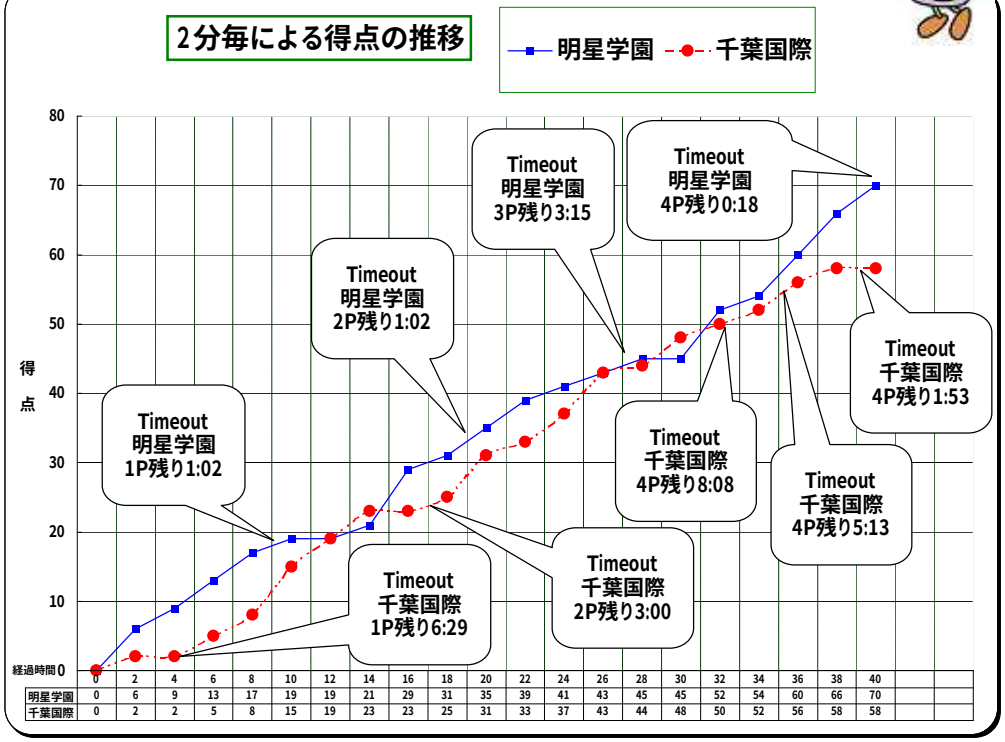
出場：×は先発、／は出場

千葉国際

番号	氏名	出場	得点	3P 成功	3P 試行	2P 成功	2P 試行	FT 成功	FT 試行	反則	リバウンド OF	リバウンド DF	TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分
4	大江 美香	X	10	1	1	2	5	3	4	5	1	5	4	0	1	3	31
5	刀根 真波		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
6	尾崎 万理音	X	11	0	0	4	12	3	5	3	1	8	8	1	1	2	39
7	松井 憂		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
8	中村 玲那	X	18	0	3	8	13	2	4	4	0	3	7	5	2	0	40
9	小菅 由香	X	14	0	1	6	10	2	4	2	5	7	4	2	2	0	40
10	上村 智恵美	／	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
11	藤原 朱唯		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
12	森 千夏	／	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	9
13	松岡 実希		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
14	萱野 千尋		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
15	小林 真由美	X	5	1	7	1	3	0	0	0	0	3	5	1	2	0	40
コーチ	鈴木 義高									0	4	5	1				
			58	2	13	21	43	10	17	14	12	31	29	9	8	5	200
			確率	15.4%		48.8%		58.8%			計	43					

出場：×は先発、／は出場

2分毎による得点の推移



経過時間	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40
明星学園	0	6	9	13	17	19	19	21	29	31	35	39	41	43	45	45	52	54	60	66	70
千葉国際	0	2	2	5	8	15	19	23	23	25	31	33	37	43	44	48	50	52	56	58	58

戦評

選手層の厚さと、相手の隙を逃さず得点に結びつける決定力を持つ明星学園に対し、初出場の千葉国際が、昨日の一回戦突破に続け、戦いに挑む。長身プレイヤーを備えた両チームの戦いに注目したい。

第1P、両チームともハーフコートマンツーマンディフェンスでスタート。立ち上がり、プレイの固さが見られる千葉国際は、パスミスを連続する。対して、明星学園は＃7張のセンタープレイ、＃5関戸の外角シュート等で得点していく。終盤、落ち着きを取り戻した千葉国際は、＃8中村のスピードあるドライブイン等により、次第にペースを掴んでいき、19対15の明星学園リードで終了。

第2P、千葉国際は2－3ゾーンディフェンスに変え、明星学園のセンタープレイに対し厚く守っていく。オフェンスのリズムを崩す明星学園に対し、千葉国際は＃8中村の巧みなドリブル捌きからの2P、＃4大江の3Pで同点に持ち込む。暫く、一進一退の攻防が続くが、明星学園＃15佐藤が投入され、その長身を生かしたゴール下の果敢なプレイで、再び明星学園が息を吹き返し4点リードで前半終了。

第3P、引き離しにかかりたい明星学園は＃5関戸のドライブシュート、＃7張のゴール下で得点するが、千葉国際は＃6尾崎、＃9小菅のポストプレイで応戦する。ハーフコートマンツーマンディフェンスに戻した千葉国際は、ヘルプディフェンスをより強固にし、明星学園のセンターへのパスのタイミングを狂わし逆転。45対48の千葉国際のリードで3回戦進出をかけた最終Pへ。

第4P、立ち上がり両チームとも制空権を争う戦いとなる。ゴール下を果敢に攻めていく明星学園が再びリードし加点していく。千葉国際も、もう一度逆転を狙うが、一瞬のオフェンスの隙を突かれ、次第に得点を離されていく。最後まで両チームとも白熱したプレイが展開されるが、ゴール下の決定力が勝った明星学園に軍配が上がった。最後まで自分たちのバスケットを信じ、諦めずに戦い抜いた千葉国際に会場から拍手が沸いた。

主審	山田 健一	副審	宮本 和徳	戦評	高瀬 千鶴子 (埼玉県高体連)

3P：スリーポイントシュート、2P：2ポイントシュート、FT：フリースロー、OF：オフェンス、DF：ディフェンス、TO：ターンオーバー、ST：スティール、AS：アシスト、BS：ブロックショット